

■製品に関するご注意とお願い

1. 混合栓・水栓金具

- 施工および点検・メンテナンスのために、キャビネット内に給水・給湯配管および止水栓の設置をお勧めいたします。また、給水・給湯配管および止水栓をキャビネット壁内に配管する場合は、経時変化や器具劣化による漏水が発見できない場合がありますので、必ず点検口を設置し、作業可能なスペースを確保してください。
- 水栓各部位に対して無理な荷重を加えないようにしてください。損傷する恐れがあります。
- スパウト回転制御付きの水栓金具について、設置場所の寸法は、図面の回転角度より少し余裕を持って設計してください。設置状況や、製品の寸法公差の影響により、吐水口先端がシンクや洗面器などからはみ出す恐れがあります。
- 器具取付後は定期的にストレーナー・泡沫内芯の清掃を行ってください。配管内のゴミなどにより目詰まりを起し、水量が低下する恐れがあります。
- 混合栓の図面は、一般地用を記載しております。寒冷地用図面につきましては、各支店、営業所にお問合わせください。
- 塗装品は一般的なニッケルクロムメッキに比べ、柔らかいため取扱いにはご注意ください。お手入れについても、塗装を長持ちさせるために乾いた柔らかい布をご使用ください。また、ブロンズ・オールドブラス・クリアブラス・ピンクゴールド・ゴールドの水栓はメッキ(素地)を保護(変化の防止)するために、表面にクリア塗装を施しておりますので、特にご注意ください。
- 樹脂製のハンドル、ハンドルキャップなどの製品は、アルコール清掃はしないでください。アルコールの影響で割れや変色、破損の恐れがあります。
- レトロ・アンティーク製品は、ご使用の時間経過と共に、お買い求め時の砲金・真鍮色から落ち着いた色調に表面が変化していきます。
- 屋外での使用において若干の色落ちや変色が発生する場合があります。

2. キッチンおよび洗面・手洗用水栓

- 固定金具は取付台に正しく取付けてください。シンク下へ漏水し、家財に損害を与える恐れがあります。
- 給水・給湯ホースおよび給水・給湯ホース上部の銅管は、無理に曲げないでください。屈曲により水量不足や損傷にいたることがあります。
- 水栓取付け時、止水栓との位置関係は、水栓を中心として湯水配管の止水栓が均等な状態での位置になるよう施工してください。また水受容器についても水栓の真下となるよう設置してください。
- ポップアップ洗面混合栓の引棒部に湯水がかかると、引棒をつたいキャビネット内に水が落ちる恐れがありますのでご注意ください。
- 海外品は国産品と比較して器具抵抗が大きいため、キッチン・洗面・手洗用として十分な水量を得るために、給水・給湯は、ほぼ同圧で0.1MPa以上(静水圧)を確保願います。0.1MPa以下に減圧されている電気温水器(標準圧力型)とのセットでは、満足される吐水量が得られない場合がありますのでご注意ください。ただし高圧力型(約0.2MPa)の電気温水器は使用可能です。

3. 引出しシャワータイプ水栓

- 引出しシャワータイプ水栓設置の際、ホースの引出しを確認のうえ、スムーズに収納できるよう設置してください。
- 引出しシャワータイプ水栓設置の場合は、壁排水にしないでください。シャワーホースが排水管に接触して引出せなくなる場合があります。
- シャワーホースの引出し口に直接湯水をかけないでください。
- 引出しシャワーホースをつたい、シンク下へ水が落ちる恐れがありますので必ず水受容器を設置してください。また、水受容器はシャワーホースがきちんと収納できるよう設置してください。

4. バスルーム用水栓

- 電気温水器(標準圧力型)とのセットでは満足される吐水量が得られない場合がありますのでご注意ください。ただし高圧力型(約0.2MPa)の電気温水器は使用可能です。
- サーモスタット混合栓は設置後、目盛り通りの温度が出るよう取扱説明書にしたがって調節してください。

5. 洗面器・手洗器

- 水栓、排水金具（排水上部セット付きの場合は、排水トラップ）、止水栓は含まれておりません。
- 洗面器・手洗器を設置の際は、必ず止水栓を合わせて設置してください。形状・大きさにより水量が多いと水の飛び跳ねが起こることがありますので、止水栓にて水量調節を行ってください。
- 割れ・欠けなど破損しやすいので運搬時・施工時など、お取扱いには十分にご注意ください。
- 洗面器・手洗器に重いものや硬いものを落ささないでください。傷をつけたり破損する恐れがあります。
- 製造工程において、完成寸法には誤差が生じます。カウンタートップの嵌め込み施工・穴あけ作業の嵌合は必ず現物でご確認ください。
- 製造上の理由により外観・寸法にバラつきが生じます。ご了承ください。
- 衛生陶器は、素地と釉薬の収縮性の違いから経年により表面に貫入（ひび割れ模様）が生じることがあります。貫入は製品機能（平滑性、防水性など）に影響を与えるものではありませんので保証対象外となります。
- 洗面器・手洗器設置の際、天板との間にコーキングなどシール材を必ず施してください。
- 水栓／洗面器・手洗器／排水金具などの組み合わせにより施工の取合い寸法が異なります。施工の際は、事前にご確認ください。特に当社以外の製品との組み合わせの際はご注意ください。
- 銅仕様の製品は、時間の経過と共に表面の色調が変化します。
- 屋内用の合成樹脂製洗面器は屋外で使用しないでください。
- 合成樹脂製洗面器は重量があるため、カウンターの強度はご考慮ください。
- 熱湯を注ぐと、急激に膨張を起こし、表面にひび割れが発生することがあります。破損してケガをしたり、漏水の原因になりますので熱湯を注がないでください。
- 洗面器・手洗器に油やシンナーなどの溶剤を流さないでください。破損および漏水の恐れがあります。
- ポップアップの排水栓は完全に止水しません。長時間水をためることはできません。
- 金属たわしやクレンザー・磨き粉など粒子の粗い洗剤・酸性、アルカリ性や塩素系の洗剤・ベンジン・油などは、表面を傷めますので使用しないでください。

6. カウンター・キャビネット

- ヘアカラー・ヘアマニキュア・養毛剤、うがい薬などの薬液、化粧品がかかったまま放置しますと、変色する恐れがありますのですぐに洗い流してください。また、石ケンや水を長時間放置しますと、表面の変色やふくれの原因となります。普段より水分を乾いた布で拭き取ってください。
- 表面に硬いものなどを落としたりぶつけたりしないでください。傷が付く恐れがあります。
- 割れ・欠けなど破損しやすいので運搬時・施工時など、お取扱いには十分にご注意ください。
- ヘアドライヤーの熱風、火のついたタバコやストーブの熱など、異常高温は避けてください。また、直射日光も避けてください。反りや変色の原因となります。
- 無理な荷重や衝撃を加えないでください。破損の原因となります。
- 製造工程において、若干の収縮や反りが生じます。ご了承ください。
- 必ず設置場所までの搬入スペースを確保してください。
- カウンターの両端が壁面の場合、片側5ミリの隙間を設けるように間口寸法を設定してください。なお、間口寸法が1100ミリ以下の設置場所で斜め入れ横倒し設置を行う場合、壁面にカウンターが接触する場合がありますので間口寸法をお問合わせください。
- 木質系材料には、ホルムアルデヒド発散区分最高等級（F☆☆☆☆）を使用しています。

7. 小型電気温水器・センサー水栓

● 小型電気温水器・センサー水栓 共通

- 施工および点検・メンテナンスのために、キャビネット内に給水配管および止水水栓の設置をお勧めいたします。また、給水配管および止水水栓をキャビネット壁内に配管する場合は、経時変化や器具劣化による漏水が発見できない場合がありますので、必ず点検口の設置と作業可能なスペースを確保してください。
- 浴室など、水がかかたり湿気が多い場所では使用しないでください。故障や火災・感電を起こす恐れがあります。
- 凍結の恐れのある場所では使用しないでください。凍結破損により漏水する恐れがあります。
- 屋内用のため屋外には設置しないでください。故障や感電の原因となります。
- 以下のような場合、動作に支障をきたす恐れがあります。
 - ①放送局、無線局などの強い電磁波を発生する施設(機器)が近くにある場合
 - ②インバーターや赤外線・電波を用いた機器が近くにある場合
 - ③医療機器(各種検査装置など)が近くにある場合
- 修理技術者以外の人は絶対に分解したり修理・改造は行わないでください。
- 温水器や水栓には無理な荷重や衝撃を加えないでください。
- 水栓の吐水口にホースや浄水器などの抵抗となるものを接続しないでください。
- 温風乾燥機など赤外線を用いた機器と併せて使用する場合は、それらの機器の赤外線ビームが、本品のセンサー部や陶器(洗面・手洗器)内に入らないようにしてください。誤作動の恐れがあります。

● 小型電気温水器・センサー水栓(AC、DC兼用品) 共通

- 指定する電源以外では使用しないでください。故障や火災などの原因となります。
- 水・油・洗剤などがかからない位置に電源プラグ用のコンセントを設けてください。感電の原因となります。

● 小型電気温水器

- アース工事を必ず行ってください。感電の恐れがあります。
- 本体の銘板や仕様表に記載している消費電力、電源を確認し、必ず適した配線をしてください。火災の原因となります。
- コンセントは、接地用端子の付いた接地極付コンセントを取付けてください。また、必ず温水器専用のコンセントを設置してください。他の機器とコンセントを兼用するとコンセントの電源容量が不足することがあります。
- 温水器を設置する際は、必ず天面を上にして水平に取付けてください。
- 温水器と水栓は専用品のため、他の温水器や水栓と組合わせての使用はできません。
- 吐水量が少ないため、残渣などを流すとトラップ内に残留する場合があります。設置場所や使用状況に合わせて、排水設備(掃除口つきトラップなど)の選定を検討されると共に、定期的な点検・維持管理の実施をお願いいたします。

8. 壁面取付け製品

- 製品取付け下地は、製品の使用に十分耐えられるような構造、材質をご準備ください。

9. 寒冷地製品

- 気温・室温が0℃以下になる場合は、凍結予防を行ってください。水栓金具や配管が凍結破損すると、漏水して家財に損害を与える恐れがあります。凍結予防には次のいずれかを行ってください。
 - ①暖房などにより室温が0℃以下にならないようにする。(屋外設置の場合、保温材を巻くことも効果があります)
 - ②水栓から水を少量流したままにする。
 - ③水栓、配管内の水を抜く。
- 整流器・泡沫金具は残留水により凍結破損する恐れがあります。残留水の除去、泡沫金具を取外すなどの対策を行ってください。
- 凍結時に解氷機をご使用の場合、水栓本体部には絶対に通電しないでください。水栓内部の樹脂部品が破損します。
- 凍結が予想される地域や、凍結の可能性がある場所には、寒冷地製品をご使用ください。
- 寒冷地仕様とは、不凍帯に埋設した不凍栓から水抜きするための構造で、耐寒性能を高めた製品ではありません。

10. ステンレスシンク

- ステンレスはさびにくい金属ですが、塩素系洗剤や醤油などの塩分の高いものが付着したまま放置するとさびの原因になります。付着した場合は十分に水洗いしてください。
- 熱湯や油、シンナーなどの溶剤を流さないでください。破損および故障の恐れがあります。

11. アクセサリー

- 特に表記がない限り、ペーパーホルダーのカバーは、トイレトーパーを切るために設計されたものではありませんのでご注意ください。
- 各種アクセサリーへ無理な荷重を加えないようご注意ください。
- 化粧鏡は内装用です。外装および浴室など直接水がかかる場所でのご使用は避けてください。また、強い衝撃を受けることが予想される場所でのご使用も避けてください。
- 収納付鏡のミラー扉にぶら下がったり、無理な力で開閉操作をしないでください。蝶番に負荷が掛かり、ミラー扉が落下する恐れがあります。
- シャワースライドバーのフック部には無理な荷重は加えないようご注意ください。
- シャワースライドバーは、石ケンカス・水アカなどにより滑りやすくなる恐れがありますので、定期的に表面の清掃を実施してください。

12. 温水洗浄便座、便器

- 浴室など、水がかかったり湿気が多い場所では使用しないでください。故障や火災・感電を起こす恐れがあります。
- インバータ照明下でリモコンを使用した場合、温水洗浄便座が作動しないことがあります。ご購入前に特殊な照明をご使用でないかご確認ください。
- 黒っぽい壁では、リモコンの受信条件が悪くなる場合があります。その際は、リモコンの位置を変え受信可能な場所への設置をお願いいたします。
- リモコンを2台以上隣接して設置される場合、隣のリモコンの信号を受けて誤作動する恐れがあります。2台までは、リモコン信号を変更して使用することができますので、当社にお問合わせください。
- 修理技術者以外の人は絶対に分解したり修理・改造は行わないでください。
- 電源はAC100Vを使用し、コンセントにガタツキのないことを確認のうえ、根元までしっかり差込んでください。
- 取付けに必要なスペースを確保すると同時に、ドアの開閉に支障がないことをご確認ください。
- トイレ床材に防水加工がされていないフローリング(木質系)を使用しますと、こぼれた小水などがフローリングのシミや腐食の原因となりますので、クッションフロアやタイルなどのご使用をお勧めいたします。
- 温水洗浄便座には、上水道水以外は使用しないでください。ぼうこう炎や皮膚の炎症などを起こす恐れがあります。また、腐食や異物付着により機器の故障を起こす恐れがあります。
- アース工事を必ず行ってください。感電の恐れがあります。
- 熱湯を注ぐと、急激に膨張を起こし、表面にひび割れが発生することがあります。破損してケガをしたり、漏水の原因になりますので熱湯を注がないでください。
- 腰掛便器は、公的介護保険制度の「住宅改修費等の支給」のサービスが受けられます。

13. 水栓柱・水栓柱パン

- 水栓柱パン、手水鉢は埋設しないでください。(埋設可能除く)
- 屋外での使用において若干の色落ちが発生する場合があります。
- 本体部に衝撃を与えないでください。破損の恐れがあります。